

## ネブタ流しと寺家小学校の子供たち

国の重要無形民俗文化財に指定されている滑川のネブタ流しに、寺家小学校は平成13年より参加しています。7月31日(月)には、希望する5・6年生は保護者と一緒に海に入って大たいまつを流します。

7月14日(金)、今年のネブタ流しに向け、東地区公民館をはじめ地域の方々にご指導をたまわり、6年生は大たいまつ作り、5年生は飾り作りに取り組みました。

今年は、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に引き下げられて初めてのネブタ流しを迎えます。感染が広がった令和2年は、児童の参加は中止となりました。それでも、ネブタ流しの伝統を守るため、歴代の育友会長や有志のみなさん、東地区公民館の方々で大たいまつを海に流しました。令和3年は、感染予防に気を付けて6年生のみに限定して行い、6名の児童が参加しました。昨年は、5・6年生の参加に戻しましたが、1学期に感染拡大があり、その影響からか児童は3名の参加となりました。

かつて、児童の参加数が年々減少していた時期がありました。平成26年には7名、平成27年には5名となりました。これでは、寺家小学校としての参加の継続が危ぶまれると感じた当時の6年生が、総合的な学習の時間を使って、「ネブタ流しを今後につなげていくにはどうすればよいか」と探究しました。そして、学習発表会にて、アンケートや聞き取り調査などを通して分かったことを発表しました。それは、ネブタ流しでは子供が海に入るため、保護者同伴が条件であることから、保護者の理解や関心が大きな影響を与えているという内容でした。そのことを子供たちはプレゼンテーションや寸劇で全校児童や保護者の前で発表したことで、ネブタ流しへの関心がぐっと高まりました。この学習発表会が行われた翌年の平成28年、参加児童17人と約3倍に増えました。こうして、ネブタ流しの伝統が継承されてきたところに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に直面しました。

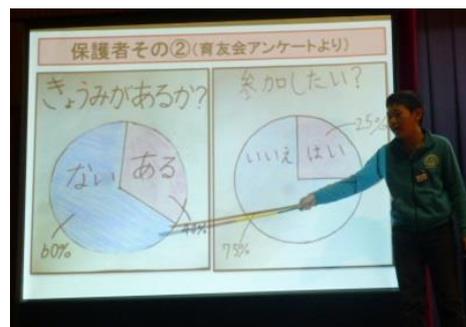
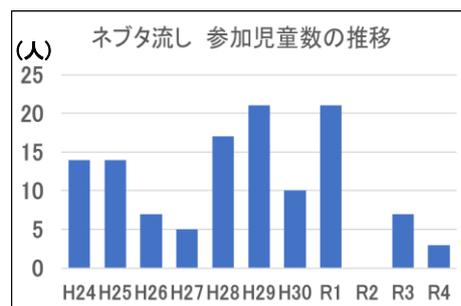
ネブタ流しへの関心は、伝統文化の継承には欠かせないものだと思います。学習発表会で、「海に入らなくても、海岸でネブタ流しを見たり、海に入っている人を応援したりすることも、『ネブタ流しへの参加』です」と言った6年生の一言は、とても印象深いものでした。このことから、ネブタ流しの現場に足を運ぶきっかけになればという思いを込めて、ネブタ流しのチラシを全校に配布することとし、今も続いています。

さて、いよいよ夏休みが始まります。今回紹介しましたネブタ流しを含め、学校ではできない体験活動は、子供たちの「生きる力」をはぐくむと考えます。この夏、興味・関心のあることについて、親子で計画を立て一緒に取り組む機会を設けてはいかがでしょうか。

(校長 広田 積芳)



【大たいまつ作り】



【平成27年 学習発表会】